

令和 4 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	中学 5	学 校 名	県立鹿島高等学校附属中学校				課程			学校長名		小沼 浩幸				
教頭名	青木 重雄								事務（室）長名		根本 和芳					
教職員数	教諭	13 内兼務 1	養護 教諭	1	常勤 講師	0	非常勤 講師	0	実習教諭、実習講師、 実習助手	0	事務職 員	0	技術職 員等	1	計	18
生徒数	1 年			2 年			3 年			合計			合 計			
	男		女		男		女		男		女		合 計			
	20		20		20		20		20		60		60			
															3	

2 目指す学校像

- ◇ 6年間を見通した教育実践をととして、確かな学力を育むことのできる学校
- ◇ 様々な人々との交流を通じて、豊かな人間性とコミュニケーション能力を育むことのできる学校
- ◇ 文武両道の精神のもと、心身の健全な発達を育むことのできる学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	入学者選抜を経て入学してきた生徒であり、学習に対する意欲や向上心が高い。	年間を通して学習意欲を維持させる必要がある。
進路指導	併設型中高一貫教育校の特色を生かし、6年後を見据えた進路指導を展開している。	コロナの制約下でも、実現可能な進路の行事の機会提供。

別紙様式 1 (中)

生徒指導	落ち着いた学校生活を送っている。広域からの通学のため登校時間を高校に合わせて設定している。	引き続き、いじめのない安心安全な学校作りに向けた教員間の共通理解。交通安全への意識喚起。
特別活動	生徒会活動・部活動に積極的に取り組もうとする姿勢が見える。スクールバスの運行に合わせ、部活動を展開している。	生徒会主体となり、異学年交流を行っていく。
渉外	高校進学後に各支部での PTA 活動となることを見据え、各クラスにおける PTA 活動をサポートしている。	学年委員の保護者にも PTA 評議会に参加していただき、学校と保護者の協力・連携をより強めていく。
図書視聴覚	図書室を活用して積極的に読書をする生徒が増えるよう、ブックカフェ等で図書館と本の PR を行っている。	さらなる生徒の読書意欲の喚起を生徒図書委員とともに実施していく。
保健厚生	教室の換気や検温、手指の消毒を徹底している。	コロナに対しての意識の保持に努める。
情報	それぞれの生徒が 1 人 1 台学習用端末を適切に使用することができている。	情報機器の適切な使い方について確認し、情報モラルに対する意識を高めていきたい。
教育相談	希望する生徒に対して SC との面談を行うことができた。また、中学 1 年生に対しては全員面談を行うことができた。	相談に時間を要するケースもでてきており、調整を円滑に行っていく。
広報	学校説明会・学校公開・HP などを利用して、本校の指導体制や特色を発信していく。	学校 HP の更新頻度を上げ、学校生活の様子を知ってもらえるようにする。
働き方改革	3 学年揃ったことに伴い、昨年度よりも業務内容が多岐にわたり、複雑になっている部分がある。	ICT の有効利用や組織として業務の見直しを行い、全員が時間外勤務月 45 時間以下になるように努める。

4 中期的目標

1	教科指導の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを推進する。
2	タブレット端末や学習支援アプリ、電子黒板等を有効に活用した学習スタイルを確立する。
3	「み・そ・あ・じ」（みだしなみ・そうじ・あいさつ・じかん）指導の徹底。
4	豊かな人間性と「起業家精神」を兼ね備えた地域のリーダーや世界に飛び立つ人財を育成するため、探究学習や国際教育、科学的教育を推進する。
5	教職員ひとり一人がコンプライアンスを徹底するとともに、組織として業務の見直しを行い、教職員の働き方改革を推進する。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
学力向上	生徒の学力向上に努める。そのために、学習指導の充実を図り、手段として ICT 機器の効果的な活用に取り組む。
ICT 教育の充実	県から 1 人一台貸与されている Chromebook を効果的に活用し、Google Classroom や Classi 等の学習支援アプリを活用した学習スタイルを確立させていく。
基本的生活習慣の確立	学校全体として統一的な指導体制を堅持し、家庭や関係機関との連携を組織的に進めながら、自主的・自律的かつ責任ある行動のとれる人間の育成を図る。
探究学習の推進	令和 2 年度開校の 5 校と令和 4 年度開校の 2 校の中高一貫教育校による連携や本校独自の取組など、探究学習の方法を実践しながら確立していく。
コンプライアンスの徹底（「たいせつです」運動）及び働き方改革の推進	「たいせつです」運動（体罰の根絶・飲酒運転の根絶・セクハラ等の根絶・使い込みの根絶・データ漏洩の防止・スピード違反の防止）の推進を含め教職員のコンプライアンス意識を高め、服務規律の確保に努めるとともに、教職員の「働き過ぎ」を防ぐなど働き方改革を推進する。